

第7回宝塚市総合計画審議会 会議結果

開催期間: 令和3年(2021年)4月6日(火)～13日(火) (書面開催)

議題1 第6次宝塚市総合計画の答申について

「反映」 ←意見を反映する場合
 「一部反映」 ←意見の一部を反映する場合
 「原案どおり」 ←意見を反映しない場合
 「その他」 ←質問や今後の取組の参考とした意見

パブリック・コメントの結果等について

No	該当箇所	意見	意見に対する対応、考え方 又は 修正内容	
			区分	内容
1	資料1 P2	(提案)パブリックコメントを拝見する限り、「具体的な施策が見えない」といった意見が目立っているように思う。1、2ページ目の説明やイメージ図があるにも関わらず、基本構想や基本計画の立ち位置や役割が多くの人に伝わっていない、理解されていないということではないでしょうか。具体的な施策は、基本構想、計画の方向性を元に分野別計画に示されることを、明確に伝える説明文が必要なのではないでしょうか。	反映	ご意見を踏まえ、P36の記載に加え、P1の「1 総合計画とは」の文中を以下のとおり修正します。 【修正前】 ……また、本市が定める計画の最上位に位置し、各分野別計画は総合計画に即して策定します。 ↓ 【修正後】 ……また、本市が定める計画の最上位に位置し、具体的な取組等を示す各分野別計画は総合計画に即して策定します。
2	資料1 P13	【6つのめざすまちの姿】(6)宝塚らしい”にぎわい”と文化芸術があふれる、創造性豊かなまちのフレーズについて、パブコメ市民等からの意見(P3 No7)にもあるように、「宝塚らしいにぎわい」がどんなにぎわいなのか、また「宝塚らしい」とはどんなイメージなのか、今更ですが、総計の読み手が理解できるか疑問に思います。確か以前にもこの点についての意見を述べた経緯もありますが、「原文通り」となりました。何か読み手任せのイメージづくり的感が否めません。代案として「まちに”にぎわい”(もしくは”にぎわい”)と文化芸術があふれる～」ではいかがでしょうか。(意見です)	原案どおり	宝塚らしい”にぎわい”については、各論欄「現状と課題」やそれぞれの分野別計画などにも随所に記載していますが、例えば寺社、歌劇、温泉、植木などへの来宝者が多いことや市民や来宝者に様々な文化芸術に触れる機会が提供されていることなどがあげられます。これらのことは本市のにぎわいを培ってきたものであるとともに、今もなお創出し続けている代表的なものですが、「宝塚らしさ」は、読み手や市民の方など本市のまちづくりに関係する皆さまの感覚や価値観に基づき、これら以外にも様々あると考えています。また、今後、市内で新たに創出されるにぎわいも宝塚らしいにぎわいにもつながっていくものと考え、定義の枠を狭めるような説明や注釈などは設けず記載しています。 なお、より丁寧な説明とするため、パブリック・コメント意見に対する回答にこの旨を追記します。
3	資料1 P37、38	計画書(答申案) P37(1)現状と課題の記述には、まちづくり協議会の認知度は必ずしも、高いとは言えず… P38施策(1)市民自治の基盤となる地域自治の確立 ○まちづくり協議会の活動の充実を支援します。とあるが、支援し、市民への認知度を上げます。などの表記のほうが、課題に対応すると思えます。※この時点で意見するのは申し訳ありませんが。 成果指標についても、◆地域ごとのまちづくり計画において順調に進んでいる取組の数 →◆地域ごとのまちづくり計画における達成状況などのほうが適切かと思えます。	一部反映	○ 課題に対する施策として、ご意見の踏まえ下記のとおり修正します。 (修正前) まちづくり協議会の活動の充実を支援します。 ↓ (修正後)まちづくり協議会の活動の充実を支援し、市民への認知度の向上に取り組めます。 ○ 成果指標について、ご意見を踏まえて、下記のとおり修正します。 (修正前) 地域ごとのまちづくり計画において順調に進んでいる取組の数 ↓ (修正後)地域ごとのまちづくり計画において達成又は順調に進んでいる取組の数 (理由) 地域ごとのまちづくり計画の具体的な取り組みには、比較的短期間で達成できる取組から、達成まで長期間にわたる取組が必要な取組まで、さまざまな取組があり、達成した項目のほか、取組を進めている項目も評価することで、取組達成への意識や意欲を維持・向上させたいと考えています。
4	資料1 P161	(2)主な成果と今後の課題 2 安全・都市基盤 防災・消防 今後の課題 文末に加える⇒「地震、強雨、津波などは広域的なものである。本市は将来の災害に備えて阪神間の各行政に互に協力する旨の提言を発してゆきたい」	原案どおり	P125以降は、付属資料であり、主に過去の審議で使用した資料の抜粋を掲載しています。当該箇所は、総合計画審議会でもお示した「第5次総合計画 後期基本計画 評価検証シート(総括)」から抜粋した内容であり、原案のとおりとします。 なお、阪神間(尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町)においては、災害応急対策活動の相互応援に関する協定を締結しております。
5	資料2 No3	協働のまちづくりに市民が参画できる仕組みには、地域のまちづくり協議会、自治会、市民活動団体があります。これらに積極的に関わることで協働のまちづくりに参画されてはいかがでしょうかという記述を追加しては如何でしょうか？	反映	ご意見を踏まえて、「第6次宝塚市総合計画(案)に対するパブリック・コメント手続きに基づく意見募集の結果一覧表」に以下を追記します。 「なお、協働のまちづくりに市民が参画できる仕組みには、地域のまちづくり協議会のほか、自治会、市民活動団体があります。これらに積極的に関わることで協働のまちづくりに参画いただけると幸いです。」
6	資料2 No9	「4月から宝塚駅前から西谷間バス廃止」に対する市の回答書では「地域特性に応じた公共交通機関の確保について検討を進めます。」このやり取りを見ると、バス廃止になる前に検討して結論を出さないといけない問題をなぜ廃止決定になってから検討するのか疑問に思いました。西谷地区の開発には、従来の縦割り組織ではなく組織の壁を取り払った西谷地区に特化したプロジェクト方式で臨む方がいいと思えます。市民に丁寧な説明が必要です。	その他	西谷地域の公共交通は、運行経費の増大等により従前の路線バスの維持が困難なため、地域の皆様のご意見も参考に小・中学校への通学便などを優先して路線を再編したものです。現在の路線バスを維持するのは困難なことから、地域需要に見合う新たな交通形態の導入について地域団体等と調整しているところです。 西谷の活性化に向けては、引き続き北部振興企画課において、各所管課の取り組みの情報収集及び振興施策の総合調整を行ってまいります。

No	該当箇所	意見	意見に対する対応、考え方 又は 修正内容	
			区分	内容
7	資料2 No14	「行財政経営を謳う…方向性が見えてくる。」に対する市の回答「成果指標にかかる数値目標…記載せず…毎年行う評価・検証の中で目標をたて進捗管理して…」この回答の真意が不明です、行政が行う施策は多岐にわたり数値目標になじまないものもありますが数値目標可能な施策もあります。総合計画は10年という長期計画です。最終数値目標を定めて単年度ごとに目標を定める方法では、最終数値目標を単年度ごとにブレークダウンした数値に対する成果を毎年評価・検証して軌道修正を行い最終目標数値に到達するという一般的な目標管理ができません、なぜ成果指標に最終数値目標を設定しないのかなぜ一般的な目標管理を採用しなかったのか等市民に対して丁寧な説明が必要だと思います。	原案どおり	第6次総合計画は分野別計画を十分勘案し、策定することとしており、分野別計画の中で10年後の数値目標について検討ができていないものがある現状において、数値目標の記載は難しいものと考えています。ただし、策定後に毎年行う評価・検証の中で、単年度ごとではなく、数年後の目標を立て、外部にもお示ししながら進捗管理していきたいと考えています。
8	-	意見の採否やその理由についてはこれで結構です。		

計画書前文の「はじめに」について

No	意見
1	<p>文言の中に、連続とつながりをイメージしたものを入れてほしい。</p> <p>各分野での「計画」ではあるが、計画の実現には横断的なつながりが不可欠。また「子ども」は「高齢者」への入口でもある。すべてが連続している。そのバランスの中での宝塚市の営みであってほしい。もちろん自然と人も同じ。農地と里山も。分断はすべての禍のもとだと思います。</p> <p>観念的で申し訳ありません。</p>
2	<p>第6次総計策定に当たり始めて取組んだことなどの意義についてを記載していただきたいと思います。</p> <p>1, 作成根拠は法律ではなく、まちづくり基本条例に基づいたはじめての総合計画であること。 2, 議会の議決すべき事件を定める条例によって基本計画として初めて議会の議決を得て策定する計画であること 3, 初めて市民ワークショップでまちづくりの視点とめざすまちの姿の提言をうけて作成したこと 4, 初めて市民のまちづくり計画を盛り込んだこと</p>
3	<p>計画書の前文にはつぎのことの掲載をお願いします。</p> <p>本計画の策定にあたっては、宝塚市として初めての試みである市民ワークショップ「タカラヅカ ミライ ラボ」で宝塚が大好きでまちをもっと良くしたいという市民の思いが反映された提言書が作成されたこと。</p> <p>また、第6次宝塚市総合計画では、「宝塚市まちづくり基本条例」のまちづくりの基本理念と「宝塚市協働のまちづくり推進条例」にのっとり、市民がとりまとめた「地域ごとのまちづくり計画」の「地域の将来像」と「基本目標」が行政がとりまとめた「基本計画」とともに市民と行政がとりまとめた「基本構想」を実現するための計画として位置付けられたこと。</p>
4	<p>第5次をふまえて重点目標やコロナ禍も乗り越えて目指していくべき方向を委員（パブリックコメントなどの市民の意見も受け止め、そうした市民の代表としての。市民の声を総括しているという立ち位置）の総意として示すことになると思います。そうすると市長の言葉は、これを受けて市の決意表明としてしっかりと推進していくことを力強く述べていただくことになりませんか。記載の順は「はじめに」→「市長」</p> <p>この構図でいけるならば、かなりかみ砕いた表現で、遍く市民に語りかけるような文言もありかも知れません。市に期待すること、市民一人一人が考え行動していくべきことなど、多少泥臭くなくても「ともに宝塚を良い方向に進めていくのだ」というパッションをあえてここで表しておいても良いかと思えます。</p> <p>パブリックコメントでも、確かにもう少し読み込んでくれればその要素はしっかり入れてあるのにということや、ドメスティックなしかしとても切実な要望を言わざるを得ない市民の思いが凝縮されています。「はじめに」ではそうした個々の思いと総合計画の内容をゆるやかにつなぐ役割を担わせてはどうでしょうか。</p>
5	<p>本総合計画では、「ミライラボ」や地域計画などを盛り込んだことが大きな成果かと思えますので、多分、「はじめに」でもふれられるのかと期待いたします。「やりました・できました」というより、「これからも実践しながら進化する」というニュアンスかと思えます。協働は、行政、市民、民間など多様な主体がネットワーク型で取り組んでいくもので、各主体に課題があり、実践しながら熟成するのではないかと考えます。</p>
6	<p>新型コロナ禍によるスタートであることを明記して下さい。</p> <p>観光や商工の事業者さん、医療従事者さんへのねぎらい、住民へのフラストレーション（日常生活が送れない苛立ち）。なんか、そういうところからはじめた方が第6次総合計画らしい</p>
7	<p>本計画書は、行政とまちづくり協議会、審議会等の既存の組織だけでできたのではなく、今回初めての試みとして一般市民有志のワークショップ「タカラ ミライラボ」も積極的に参画したこと、このように一般市民が参画しているので市民の皆様にはより身近なものとして読んでいただきたい。旨明記願いたい。</p>
8	<p>新型コロナウィルス感染症の影響、SDGsやこの計画から新たに考慮された社会上に関する情報を記載した方が良いと思います。その上で、本計画の特徴（第5次総計との違い）を記載し、本計画を作った経緯や市民の思いを入れた方がいいかと思いました。市長のお言葉も大変ありがたいと思いますが、市民目線での言葉を掲載する方がより身近に、市民と考えた計画であることが伝えられるかと思えます。</p>

答申書(鏡)について

No	意見
1	<p>答申書の留意事項に次のことを記述しては如何でしょうか？ 本計画の基本構想は、まちづくり基本条例にのっとり、市民と行政がとりまとめたものである。基本構想を実現するためには、行政がとりまとめる「基本計画」と市民がとりまとめる「地域ごとのまちづくり計画」の両者を進めていかねばならない。そのためには、市民と行政が協働の原則をもとにそれぞれの責任と役割を分担しながら協力し計画を実行し、進捗を評価し、改善策を講じていく必要はあります。市は、市民、市職員に本計画を周知すること。</p> <p>また、地域ごとのまちづくり計画の「地域の将来像」の実現と「基本目標」の達成には、「具体的な取り組み」の実効性を高める必要があります。そのために、「具体的な取り組み」を協働で推進するための「対話」の仕組みを構築しています。市は、市民と市職員にこの仕組みを周知し実行すること。</p> <p>本計画の策定は、「宝塚市まちづくり基本条例」と「宝塚市協働のまちづくり推進条例」に則っています。市は、市民と市職員にこの二つの条例の周知を図ること。 同時に、まちづくりは市民と市の協働が基本であることから、市民に対し自治会、まちづくり協議会の存在意義・役割の周知をはかり、自治会への加入促進およびまちづくり協議会への参加促進を図ること。</p>
2	<p>答申書(鏡)3について 従来の方法だけでなく、新たな手法によると記載されていますが、新たな方法の例示を記載してもよいのではないのでしょうか。具体的な方法を記載した方が、取組易いのではないかと思います。</p>
3	<p>これで結構です。</p>

その他

No	意見
1	<p>意見はありませんが、コロナ禍での議論であったことをどこかに記述するほうが説得性を増すのでは？ また、新市長への(からの!?)提言としての位置づけも必要なのかな?! 市民の理解を深める上で何らかふれるのがいいのでは？！</p>
2	<p>今後の総合計画策定について 今回は、策定前に色々検討され、これまでにないしかけを組み込んだ、トライアルな策定だったと思います。今後も他の自治体に先がけて、策定のしくみを工夫していただけたらと思います。</p>
3	<p>「タカラミライラボ」「地域ごとのまちづくり計画 一小まち協」「第6次総合計画」と全ての審議会に参画させていただきました。当初はコロナ禍のこの字も出てきていなかった環境の中でのスタートでした。宝塚市内だけではなく世界的にこんな世の中になるとは…。これからイチからのスタートとしての気持ちを大切にしながら第6次総合計画。住みよいまちづくりを目指していきたいと 思います。市職員、コンサルの方々お疲れさまでした。これからもよろしくお願いします。</p>
4	<p>この総合計画には、市民有志のワークショップ「タカラ ミライラボ」に始まり、総合計画審議会の議論に参加させていただき、多くの方々から貴重なご意見を聞き、自分の知らなかった宝塚市の良い点や問題点を知ることができ非常に有益な時間を過ごすことができました。これからは、この総合計画がどのように運用されていくのか見守っていききたいと 思います。</p>
5	<p>タカラボ提言書によって読み易く、身近になったことは誇らしい気持ちがします。</p>